

『戦場にかける橋』 原題 <i>The Bridge on The River Kwai</i> 1957 年		執筆: 清水 純子
制作国	イギリス、アメリカ	
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	スタッフ: 監督デヴィッド・リーン / 脚本カール・フォアマン、マイケル・ウィルソン / 製作サム・スピーゲル / キャスト: アレック・ギネス: ニコルソン隊長(大佐) / ウィリアム・ホールデン: シアーズ / 早川雪洲: 斎藤大佐 / ジャック・ホーキンス: ウォーデン少佐 / ジェフリー・ホーン: ジョイス / ジェームズ・ドナルド: 軍医クリプトン / アンドレ・モレル: グリーン大佐 /	
画像		
カラー・モノクロ	カラー	
時間	161 分	
ストーリー	<p>第二次世界大戦中、ビルマの日本軍の堀収容所に、鉄橋建設のために英軍捕虜が送られる。日本軍の斎藤大佐は、英軍のニコルソン大佐をはじめとする将校たちにも労働を強要するが、ニコルソン大佐は「ジュネーブ協定」を盾に頑として応じない。英軍兵士の士気は次第に低下し、アメリカ人捕虜のシアーズは脱走し、日本軍が命じた橋の完成期限は迫り、斎藤は困り果てる。しかしニコルソンを営倉から出して指揮をとらせ、橋の設計をまかせたことによって作業ははかどり、立派な橋が建設される。一方脱走したシアーズは、橋を爆破することを英軍から命じられ、現地に再び舞い戻り、好機を狙う。爆弾装置に気づいたニコルソン大佐は、阻止しようとしたために味方の英兵とシアーズともみ合いになる。銃で撃たれて倒れるニコルソン大佐の体が皮肉なことに爆破装置を起動させ、橋は崩れ、日本軍の鉄道も川に落ちて大惨事になる。ニコルソンは、自分のしてきたことの無意味さに失望しながらシアーズと共に絶命し、英軍の指揮官と現地人女性数名のみが残される。</p>	
時代設定	1943 年第二次世界大戦	
場所	ビルマ	
社会背景	第二次大戦中、躍進中の日本軍が利権獲得の野望のために東南アジアに進軍して、欧米諸国の利害と衝突する。	

文化的背景	欧米の連合軍が、軍国主義によって台頭する日本軍によって一時的打撃を受けていた。合理的で個を重んじる西洋文明の文化的技術的優越性に対して、閉鎖的非合理的で全体主義の日本軍の目前に迫る敗北。
使用言語	英語、日本語、タイ語
テーマ	戦争の狂気、異文化の対立、文明と未開、個と全体、規律と自由。
みどころ	国は異なっても、それぞれ信条を曲げずに強い意志をもって生きようとする英国軍大佐と日本軍捕虜収容所大佐の対比、対立と理解。戦争の理不尽さと狂気。
印象深いせりふ	I'm sorry, sir, I didn't quite follow you. You intend to uphold the letter of the law, no matter what it costs? Without law, commander, there is no civilization. That's just my point. Here, there is no civilization. Then we have the opportunity to introduce it. I suggest we drop the subject of escape./・・・As he said, it's against the rules. Do not speak to me of rules. This is war! This is not a game of cricket. He's mad, your colonel.....quite mad./・・・What have I done? Madness! I had to do it! I had to do it. They might have been captured alive! It was the only thing to do! Madness! Madness!//
授業教材用 メリット	戦争の悲惨さ、狂気、人間性の蹂躪がヒューマンな視点から描かれている。立場は違っても、信条と義務に命を捧げる男たちの悲惨だが胸打つ生きざまの提示。ビルマのジャングルが美しい。戦争ものにしては、グロテスクな場面は少ない。
授業教材用 デメリット	戦争の狂気、人間性への疑問、異文化の衝突などよく描かれているが、21世紀のさらに悲惨な現実を伝える戦争映画と比較するとリアルでない、甘い。西洋人は文明人でハイテク、アジア系は野蛮人でローテクという構造が埋め込まれる。
映像入手元	ソニー・ピクチャーズエンタテインメント
原作の有無	ピエール・ブール『戦場にかける橋』(1952年)
支持反応	Rotten Tomatoes による評価(批評家 94、観客 93)
キーワード	第二次世界大戦、ビルマ、日本軍、捕虜収容所、英軍捕虜、鉄橋建設、米軍、人間の尊厳、戦争のむごさ、文明、規則、主義、狂気、ジャングル。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。